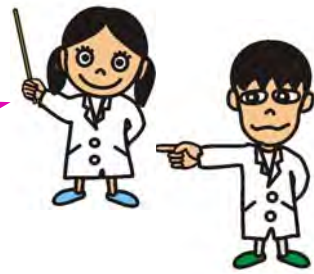


感染症に気をつけよう！



平成 24 年
11 月号

横浜市内の感染症流行状況

疾患名	流行状況	コメント
風しん	● →	全国的な流行はおさまってきましたが、関東や関西では流行が続いています。横浜でも 10 月に入ってからも成人男性を中心に流行しています。流行をおさえ 先天性風しん症候群 を防ぐために、成人も 予防接種 を受けましょう。男性も接種することが大切です。詳しくは 感染症臨時情報 をご覧ください。
マイコプラズマ肺炎	● →	全国的に流行しており、市内でも報告が多い状況が続いています。下段の「今、気をつけたい感染症」で解説しています。
RSウイルス感染症	● ↘	今年は、通常より早い時期から報告が増え続け、例年を大きく上回っていました。10 月中旬以降はやや減少傾向ですが、全国的には流行が継続しており、引き続き注意が必要です。

◎流行 ●やや流行 ▲散発 ↗増加 ↘やや増加 →横ばい ↙減少

今、気をつけたい感染症

マイコプラズマ肺炎

- ◆ 「肺炎マイコプラズマ」という細菌の一種によって起こります。子供や若い人の肺炎として、比較的多くみられる感染症です。家庭のほか、学校などの施設内での流行が問題になることもあります。
- ◆ 症状は、発熱や全身のだるさ、頭痛、痰を伴わない咳などで始まります。咳は熱が下がった後も、長く(3~4 週間)続くのが特徴です。症状にはかなり個人差があり、重症化すれば入院が必要になります。
- ◆ 以前は 4 年周期で大流行していましたが、最近は大きな流行がみられなくなった一方で、患者数が増加傾向にあります。今年も全国的に例年を上回る状態が続いています。
- ◆ 風邪やインフルエンザと同様に、患者の鼻やのどからの分泌物を介して感染するので、予防には普段からの[手洗い](#)が大切です。また、患者となって咳の症状がある時には、他の人にうつさないように、マスクを着けるなど[咳エチケット](#)を守りましょう。
- ◆ 長引く咳などの症状がある場合は、医療機関を受診しましょう。



この資料は、10 月開催の横浜市感染症発生動向調査委員会の[市民向け報告](#)です。詳しくは[委員会報告](#)をご覧ください。
市内の感染症流行に関する詳細は、[感染症発生状況](#)をご参照ください。[啓発用パンフレット](#)も作成していますので、ご利用ください。



横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 (横浜市感染症情報センター)

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>